

## 506) パーキング

我輩のクルマはかなり時代物のワゴン車である。もともと中古屋で一番安かったポンコツを買ったからスペアキーは一つしかなく、それも中古屋がコピーしてくれたものだから、ドアを開けるのも、エンジンをかけるのも引っかかる 때가度々ある。鍵の山がどうも良く合っていないらしい。先日も高速道路のパーキングエリアで、なかなか鍵が開かないで四苦八苦していると、親切にも「どうかしましたか？」と言って、中年の少し髪の毛が薄くなったオジサンが近づいて来た。「いやーポンコツなもので、鍵山がなかなか合わないのか、ドア開かないんですよ。」と我輩はそれでも多少謙遜して言うと、そのオジサンは急に不機嫌そうな顔つきになって、「ポンコツで悪かったね！これ、私のクルマなんだけど！」と言うではないか。なるほどよく見ると、色も年式も型式も、我輩のとまったく同じだったが、ナンバーだけは確かに違っていた。他人のクルマのキーを開けようとしていたのである。イヤー、こんなこともあるんだなー。それにしても警察に突き出されないで良かった。良かった。